



「腹腔鏡下胆のう摘出術」で、全国1位の症例数に 医療法人 佐田厚生会 佐田病院

医療法人 佐田厚生会 佐田病院（福岡市）はこの2月、「腹腔鏡下胆のう摘出術」の症例数が6000例を超えた。これは全国1位である。1991年1月に福岡県で初めて同術を行って以来「病院の独自性を高め、差別化を図る『看板治療』として進めてきた」（佐田正之理事長・院長）取り組みが全国ベースで認められた。同術は胆石症の治療で行われる。肝臓からは脂肪の消化を助ける胆汁が分泌されるが、この胆汁の通り道である胆のうに石ができる胆石症で、おなかの中を特殊カメラを使って観察しながら、石ごと胆のうを取り出す手術だ（石ができるようになった胆のうは胆汁を蓄え・排出するという本来の働きを失っており、取り出しても不都合はない）。同院は北海道や東京、さらにはイギリス、カナダ、中国など海外からも患者が来院するなど、評価と信頼が高まっている。ちょうど、この1月から福岡県が「福岡アジア医療サポートセンター」を同市内に開設。県内病院での検診・治療を求め、アジアなどから来日する外国人患者からの相談に応じ通訳を派遣、病院の紹介を行っているが、ここでも「看板治療」が注目される傾向にある。今回の評価と信頼は医療面での国際交流にもつながりそうだ。



佐田正之理事長・院長